［　横浜市陶芸センター　］
令和７年度業務計画及び収支予算
［　シンリュウ株式会社　］

１　施設の概要

施設名	横浜市陶芸センター
所在地	横浜市中区本牧三之谷 59-3
構造・規模	木造平屋建て及び登り窯１棟(別棟)
敷地・延床面積	延床面積　396 ㎡　登り窯延床面積　60 ㎡
開館日	平成５年８月

２　指定管理者

法人名	シンリュウ 株式会社
所在地	埼玉県朝霞市上内間木 514－2
代表者	小澤 忠
設立年月日	平成２年４月 26 日
指定期間	令和４年４月１日～令和９年３月 31 日まで
現指定管理者の管理運営開始日	平成 18 年４月１日から

３　指定管理に係る業務方針　指定管理業務実施にあたっての方針

（１）基本的な方針

横浜市陶芸センターの役割は、陶芸を通してあらゆる世代が活躍できる魅力ある町づくりに寄与していくことです。未来に向けた新しい陶芸センターのあり方として、陶芸文化発信・拠点となり地域の活性化につなげる役割を担うため、市民が陶芸に親しむ機会を提供するとともに、市民の作陶技術向上の支援を行うことにより、陶芸の普及を図ります。安定的管理運営を前提とし、これまでの運営経験を活かしながら様々なニーズに合ったきめ細かな対応を行います。そのために、次の４つの方針で横浜市陶芸センターの管理運営に取組みます。

1.　作陶講座を常に充実・向上させる

限りあるスペースを最大限活用しながら、ニーズに合わせた講座開催を行います。講座ごとに改善点を見直し、より多くの方に陶芸に親しむ機会を提供します。初めて陶芸を体験する方に向けた講座、より本格的な陶芸を学びたい方に向けた専門講座、全国陶芸産地の粘土・釉薬・焼成方法を取り入れた全国のやきものを楽しむ講座等、システム作りに努め、指定期間を通じて、常に講座内容の充実・向上を目指します。

2. 陶芸知識の基地化、次世代育成の支援を推進する

陶芸文化の拠点として、団体教室・出張教室、水挽徹底講座等、幅広い要望に応じた体験講座を開催します。また、次世代育成として親子陶芸体験や子ども電動ロクロ大会、オープンスタジオ等の子ども向け講座を多数企画します。陶芸ライブラリー(陶芸図書、デジタルアーカイブ）の充実を図るほか、指導者研修講座など陶芸指導に携わる指導員に向けた講座を企画することで、陶芸知識の基地として一歩進んだ場作りに取り組みます。招待作家講座（現在活躍している陶芸家を招いた講座）では、陶芸の新しい時流を感じていただき、施設スタッフも含めた施設の活性化を推進します。

3. 地域社会との連携に取組む

陶芸祭や共催企画により、隣接している三溪園や本牧市民公園、地域の商店街と連携し、地域の活性化に努めます。また、近年の増加している災害に対応するため、緊急時の防災対策についても近隣施設、地域と連携しながら、安全・安心して作陶できる環境に取組みます。

4. 環境に優しい施設を目指す

不良在庫を減らすための期間限定粘土・釉薬の予約販売の促進や、酸化金属を含む釉薬を下水に流さず処理すること、大量の産業廃棄物となる使用済粘土のリサイクル等に取組み、自然環境に配慮した施設運営を目指します。

（2）令和 7 年度の業務の方針

ア　全体について

令和 7 年度の業務方針は、令和 6 年度に取組んだ様々な事業運営の改善点を検討し、さらに充実した事業運営に取組みます。また、昨年度より引き続き、作陶活動拠点施設として、あらゆる世代ニーズに対応するため様々な講座を開催し、市民が陶芸に親しむ機会を提供し、陶芸人口の裾野の拡大を図ります。

陶芸祭等により近隣施設や地域団体と連携し、地域に根差した施設を目指します。知名度向上に努め、陶芸祭に合わせて『全国公募横浜陶芸展』の開催を検討します。

イ　使命１　陶芸に親しむ機会を提供する

若年層や初心者等を対象とした講座を多く実施することで、幅広い年齢層の市民に親しまれる地域の施設となることを目指します。

粘土の柔軟性や自然素材に直接触れる事で、陶芸を通じて、子供の豊かな心を育む支援を提供します。

ウ　使命２　市民の主体的な作陶活動を支援する

全国の陶芸産地の粘土・釉薬の導入やアンケートの意見を取り入れた講座を開催することで、市民の主体的な作陶活動の支援を進めます。

エ　使命３　陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する

陶芸祭、団体教室や出張教室を積極的に開催することで、地域の様々な施設・団体と連携し、地域の作陶活動拠点としてのネットワーク構築に寄与します。

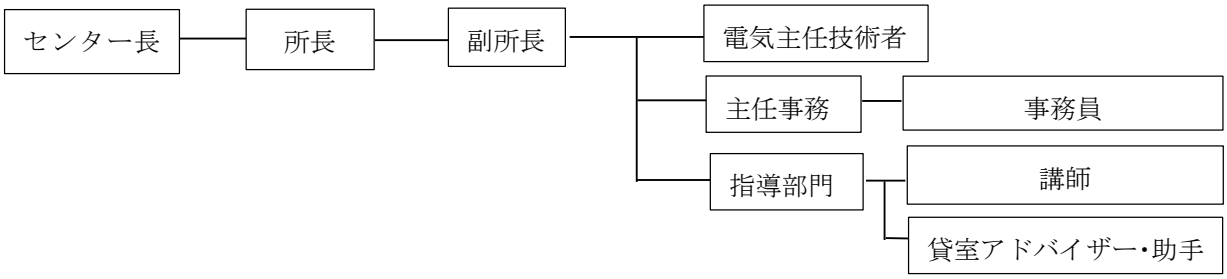
オ　使命４　持続可能性を高める施設運営を行う

令和６年度より引き続き、①日常的な建物・設備の点検②施設管理における環境への配慮③効率的な運営の努力を行い、安全・快適な施設の維持管理と安定した施設運営を目指します。

４　運営組織の構造、人員配置

項目	人数	備考
センター長	１人	全体総括責任者
所長	１人	事業・運営・管理・個人情報管理・全業務現場責任者
副所長	１人	講座運営企画・施設維持管理・備品管理責任者 緊急時所長代行・緊急時講師代行 防火責任者・広報・講師事務総括（事務、指導部門との調整）
主任事務	１人	講師事務総括、緊急時所長代行、広報、講座運営企画、備品管理責任者、施設維持管理
事務員	３人	受付業務、ローテーション勤務
講師	10 人	教室の指導、一部アドバイザー・助手兼務　ローテーション勤務
貸室アドバイザー・助手	５人	一部講師、助手兼務、ローテーション勤務
電気主任技術者	１人	電気設備点検・維持・管理

＜組織図＞



事務員、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務体制とし、講座運営に支障のないようにします。事務部門、指導部門との円滑な連携を図るため、講師も兼任できる技量をもつ社員を１名配置します。

５　令和７年度の業務の取組

（１）　文化事業

令和７年度は文化事業において次のことを重点的に取組みます。

①　「子どもロクロ大会」等、次世代育成に関する講座を拡充します。

②　より若い世代が利用しやすい曜日の講座開催や「電動ロクロ初級 3 日間講座」等の初心者向けの企画で新規利用者獲得を目指します。

③　陶芸祭の開催と、「全国公募横浜陶芸展」を企画検討し、知名度向上に努めます。

④　「作陶と点前体験」「陶芸文化鑑賞講座」「招待作家講座」を企画検討します。近隣施設や外

部講師（陶芸作家）と連携し、陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進します。

（２）施設運営

令和７年度は施設運営において次のことを重点的に取組みます。

① 貸室及び自主事業の利用者数について、年間 12,000 人を目指します。
② 年間 356 日の開館とし、利用者の便宜を図り利用促進に努めます。
③ 利用率増加のため、新規釉薬・粘土の導入に取組みます。
④ 利用者アンケートを活用した利用者サービス向上と利用を促進します。
⑤ 限りあるスペースを最大限活用し、施設の有効利用に取組みます。
⑥ 組織的な施設運営、効率的業務遂行、適切かつ効果的な勤務体制の確立に努めます。

（３）施設管理

令和７年度は施設管理において次のことを重点的に取組みます。

① 利用者の安全と適切な施設管理のため、修繕が必要と思われる箇所を常に洗い出し、出来る限り自前修繕で対応しながら利用しやすい施設運営に努めます。
② 陶芸センター周辺の環境を常に意識し、建物及び登り窯の管理に当たります。
③ 汚泥量調査を実施し、適切な汚泥管理、環境維持に努めます。

（４）収支

令和 7 年度は安定的な運営を行うため、魅力ある講座の開催、効率的な業務システムの構築、日常点検による小破修繕、在庫管理の徹底を重点的に取組みます。

（５）各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和７年度は日報、月間事業報告書、業務計画書、業務報告書を作成・管理するとともに、自己評価を行い、業務改善に取組みます。

（６）その他

令和７年度は法令の遵守、個人情報保護、情報公開について、適切に対応するとともに、横浜市との連絡調整を密にし、円滑な業務遂行に取組みます。

※５（1）～（6）の具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

６　使命の指標の達成状況と重点的取組事項

（１）　使命１　陶芸に親しむ機会を提供する

ア　定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項　目	Ｒ４実績	Ｒ５達成指標	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８達成指標	Ｒ８実績
1	総来場者数	10,929 人	11,000 人	11,621 人			13,000 人	
2	次世代育成を目的とした事業の実施回数	5 回	5 回	5 回			7 回	

3	各事業のターゲット設定(初心者、中級者等)及び事業参加者数に対するターゲットとなる参加者の割合(アンケート調査)		82%	60%	90%			80%	
4	参加者の満足度(アンケート調査)		94%	70%	96%			80%	
5 ★	体験型教室	気楽に一日陶芸体験(手びねり)	7 回/年	7 回/年	7 回/年			7 回/年	
			108 人	84 人	120 人			84 人	
		気楽に一日陶芸体験(電動ロクロ)	7 回/年	7 回/年	7 回/年			7 回/年	
			117 人	84 人	115 人			84 人	
		ゴールデンウィーク陶芸体験(手びねり)	5 回/年	5 回/年	5 回/年			5 回/年	
			77 人	60 人	59 人			60 人	
		ゴールデンウィーク陶芸体験(電動ロクロ)	5 回/年	5 回/年	5 回/年			5 回/年	
			75 人	60 人	69 人			60 人	
		ゆったり丸一日陶芸体験	7 回/年	7 回/年	7 回/年			7 回/年	
			104 人	84 人	104 人			84 人	
		夏休み親子陶芸教室	5 回/年	5 回/年	5 回/年			7 回/年	
			97 人	100 人	121 人			140 人	
6 ★	基礎型教室	陶芸入門 4 日間講座	5 回/年	5 回/年	5 回/年			5 回/年	
			141 人	120 人	160 人			120 人	
		陶芸入門 3 日間講座	1 回/年	1 回/年	1 回/年			1 回/年	
			24 人	18 人	21 人			18 人	
		陶芸入門 2 日間講座	1 回/年	1 回/年	1 回/年			1 回/年	
			10 人	12 人	10 人			12 人	

7 ★	自律型教室	自由作陶教室（10 回コース）の開催	4 回/年	4 回/年	4 回/年			4 回/年	
		利用者数	5380 人	6358 人	5500 人			6720 人	
		第 2 自由作陶教室（10 回コース）の開催	4 回/年	4 回/年	4 回/年			4 回/年	
		利用者数	243 人	328 人	435 人			328 人	

イ　定性指標（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の意見聴取及び分析	Ｒ４実績	実施
		Ｒ５達成指標	実施
		Ｒ５実績	実施（※１）
		Ｒ６実績	
		Ｒ７実績	
		Ｒ８達成指標	実施
		Ｒ８実績	

※１　参加者の意見聴取及び分析の実施

・各講座において利用者にアンケートを実施しました。体験型教室では、年間を通した講座全体の満足度が 96%と非常に高い満足度を維持できました。また、基礎型講座でも 90%以上の満足度を得られました。

・自由作陶教室（自立型教室）の年齢層は 50 代以上が 62%であり、高齢化が課題です。

・一方で、体験型教室は 50 代以下が 77%と、自立型教室と比較して若い方が受講されており、体験型教室から自立型教室や貸室への申込につなげていくことが今後の課題です。

ウ　使命１を達成するために重点的に取り組む事項

幅広い年齢層に広く情報発信を行い、指標人数達成を目指します。次世代の育成に関わる新規講座として「子ども電動ロクロ大会」を体験型教室の講座として位置付け、年 1 回開催します。夏休み期間中の子どもをターゲットとして 40 人の参加を目指します。また、陶芸に親しみを持つ機会を提供するため、令和 6 年度に新規講座として開催した「オープンスタジオ」を体験型教室の講座として継続して開催するほか、アンケートで希望の多かった電動ロクロの講座「電動ロクロ初級 3 日間講座」を陶芸入門者向けの基礎型教室の 1 講座として新たに開催し、陶芸の裾野の拡大を目指します。アンケート調査や利用者、指導現場スタッフの声を聞き取り、毎回改善点を分析し、利用者の満足度向上と講座内容の見直しに努めま

す。

（２）　使命２　市民の主体的な作陶活動を支援する

ア　定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項　目			Ｒ４ 実績	Ｒ５ 達成 指標	Ｒ５ 実績	Ｒ６ 実績	Ｒ７ 実績	Ｒ８ 達成 指標	Ｒ８ 実績
1	貸館（貸室） 利用者数			3,698 人	3,920 人	3,842 人			4,480 人	
2	作陶に関する専門技能や知識習得につながる事業の実施回数			22 回	17 回	20 回			20 回	
3	利用者満足度 （アンケート調査）			91%	70%	隔年調査のため、次年度に調査			80%	
4 ★	追求型講座	全国やきもの講座		3 回/年	2 回/年	2 回/年			4 回/年	
		利用者数		126 人	70 人	81 人			140 人	
		還元焼成講座		4 回/年	4 回/年	4 回/年			4 回/年	
		利用者数		270 人	300 人	423 人			300 人	
		大物焼成講座		12 回/年	12 回/年	11 回/年			12 回/年	
		利用者数		14 人	24 人	22 人			24 人	
		作陶展		1 回/年	1 回/年	1 回/年			1 回/年	
5 ★	専門技能習得講座	電動ロクロ水挽き徹底講座		1 回/年	1 回/年	1 回/年			2 回/年	
		利用者数		39 人	24 人	46 人			48 人	
		絵付け講座	上絵付 (3 日間コース)	1 回/年	1 回/年	1 回/年			1 回/年	
			利用者数	27 人	18 人	21 人			18 人	
			下絵付 (1 日間コース)	1 回/年	1 回/年	1 回/年			1 回/年	
			利用者数	9 人	6 人	9 人			6 人	
		招待作家講座		未実施	1 回/年	未実施			1 回/年	

		利用者数	0 人	14 人	0 人			14 人	

イ　定性指標（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握（利用者との意見交換等）	Ｒ４実績	実施
		Ｒ５達成指標	実施
		Ｒ５実績	実施（※２）
		Ｒ６実績	
		Ｒ７実績	
		Ｒ８達成指標	実施
		Ｒ８実績	

※２　利用者の状況についての現状把握（利用者との意見交換等）の実施
・貸室の利用者は 50 代以上が 79%となっており、自立型教室とともに高齢化が課題です。
・追求型講座では、新たに導入した粘土や釉薬の利用が多く、利用者の新たな興味を引きだすことができました。

ウ　使命２を達成するために重点的に取り組む事項

利用者に様々な技法に挑戦していただくために、追求型講座として「楽焼講座」を年１回開催します。また、年２回の新規釉薬の導入、日本各地の粘土を期間限定で販売する全国やきもの講座など、利用者の幅広いニーズに応えられるよう努めます。陶芸祭と併せて開催する作陶展では、日頃の制作の成果を発揮する場を提供します。令和７年度は全国公募の陶芸展も同時開催し、利用者の制作意欲の向上を促しながら継続して陶芸を楽しんでいただけるよう取り組みます。なお、令和６年度まで実施していた絵付講座の「染付」は、利用者から開催の要望が多かった「下絵付」の講座へと継承します。

（３）　使命３　陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する

ア　定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項　目		Ｒ４実績	Ｒ５達成指標	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８達成指標	Ｒ８実績
1	技術向上、指導力養成、出張教室を実施した回数		3 回	2 回	3 回			5 回	
2	地域の施設・団体等と共催・連携して実施する事業数		9 事業	10 事業	10 事業			15 事業	
3★	支援型講	指導者研修講座	2 回/年	2 回/年	2 回/年			2 回/年	
		利用者数	38 人	48 人	26 人			48 人	
		団体教室	9 回/年	5 回/年	10 回/年			8 回/年	

	座	（通常プラン）							
		利用者数	141 人	150 人	159 人			240 人	
		団体教室（オーダープラン）	3 回/年	5 回/年	2 回/年			7 回/年	
		利用者数	49 人	150 人	38 人			210 人	
		出張教室	1 回/年	1 回/年	1 回/年			3 回/年	
		利用者数	8 人	15 人	16 人			45 人	
4 ★	共催企画	三溪園共催企画	2 回/年	1 回/年	2 回/年			1 回/年	
		目標利用者数	71 人	32 人	63 人			30 人	
		本牧市民公園、地域商店街との共催企画	1 回/年	1 回/年	1 回/年			1 回/年	
		楽焼体験教室（陶芸祭体験）	1 回/年	1 回/年	1 回/年			1 回/年	
		目標利用者数	25 人	20 人	33 人			20 人	
		手びねり体験教室（陶芸祭体験）	1 回/年	1 回/年	1 回/年			1 回/年	
		利用者数	18 人	16 人	40 人			16 人	
		電動ロクロ体験教室（陶芸祭体験）	1 回/年	1 回/年	1 回/年			1 回/年	
		利用者数	20 人	16 人	54 人			16 人	
		陶芸文化鑑賞講座（隔年開催）	隔年開催のため R4 無し	1 回/年	1 回/年			隔年開催のため R8 無し	
		利用者数	－	15 人	8 人			15 人	

イ　定性指標（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	連携したことによる関係者の意見聴取及び分	Ｒ４実績	実施
		Ｒ５達成指標	実施
		Ｒ５実績	実施（※３）
		Ｒ６実績	

	析	Ｒ７実績	
		Ｒ８達成指標	実施
		Ｒ８実績	

※３　連携したことによる関係者の意見聴取及び分析の実施
・支援型講座のうち、団体教室と出張教室はアンケート評価では 100％の満足度を達成し、来年度の教室もご依頼いただいています。
・団体教室のうちオーダープランは申込が少なく、目標を達成できませんでした。主な利用者層として想定する幼稚園等は予算の都合上、通常プランを選ぶことが多いためと分析しており、より魅力的なオーダープランを打ち出していけるよう、検討を進めます。

ウ　使命３を達成するために重点的に取り組む事項

指導者研修講座や近隣施設との共催企画、陶芸文化鑑賞講座など、施設間の垣根を越えた講座を実施し、陶芸センターを拠点としたネットワーク構築の推進に努めます。

指導者研修講座では、研修後でも気軽に陶芸についての質問・疑問に対応できるように、常時電話・メールでの相談対応を行い、陶芸知識の拠点として信頼を獲得し、継続的な関係を築くことを目指します。

（４）　使命４　持続可能性を高める施設運営を行う

ア　定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項　目		Ｒ４実績	Ｒ５達成指標	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８達成指標	Ｒ８実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数		０件	０件	０件			０件	
2	法定点検等の実施率　100％		100％	100%	100%			100%	
3	修繕予算の執行率90％以上		99％	90%	100%			90%	
4	日常的な施設建物・設備の点検	施設建物目視点検	毎日	毎日	毎日			毎日	
		陶芸道具類のメンテナンス、在庫管理	週１回	週１回	週１回			週１回	
5★	環境に優しい施設維持管理	粘土・釉薬の再生（リサイクル）	月２回	月２回	月２回			月２回	
		粘土・釉薬を直接下水に流さない	毎日	毎日	毎日			毎日	

		排水溝・桝掃除	年２回	年２回	年２回			年２回	
		登り窯（レプリカ）の適切な管理	年９回実施	２ヶ月１回	２ヶ月１回			２ヶ月１回	
６★	効率的な運営の努力	早めの計画	週１回	週１回	週１回			週１回	
		業務マニュアルの見直しと改善	年１回	年１回	年１回			年１回	

イ　定性指標（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
１	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	Ｒ４実績	実施
		Ｒ５達成指標	実施
		Ｒ５実績	実施（※４）
		Ｒ６実績	
		Ｒ７実績	
		Ｒ８達成指標	実施
		Ｒ８実績	
２	管理運営費推移の要因分析	Ｒ４実績	実施
		Ｒ５達成指標	実施
		Ｒ５実績	実施（※５）
		Ｒ６実績	
		Ｒ７実績	
		Ｒ８達成指標	実施
		Ｒ８実績	

※４　施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング
・各教室・講座の受講者にアンケートを実施して、教室・講座内容とは別に建物・設備やスタッフに対する満足度や意見を聴き、令和６年度実施の給水管改修工事の際の設計に反映していただくなど、施設運営に活用しました。
※５　管理運営費推移の要因分析の実施
・業務、焼成スケジュールの作成、チェックを随時更新することにより、効率的な業務の遂行につなげました。

ウ　使命４を達成するために重点的に取り組む事項

年２回の定期清掃及び空調点検、年１回の電気点検と窯の点検により施設の維持管理に努めます。稼働率の高い窯業機械は見回り点検を毎日行い、急な故障や不調にも陶芸メーカーとしてのノウハウを活かし迅速に対応することで効率的な施設運営を目指します。

（指定管理者が記入する様式）

令和７年度　「横浜市陶芸センター」　収支予算書及び報告書

収入の部　　（税込、単位：円）

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	20,741,000		20,741,000		20,741,000	横浜市より
利用料金収入	3,310,000		3,310,000		3,310,000	貸室利用料・貸室焼成費
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入			0		0	
自主事業収入	16,728,000		16,728,000		16,728,000	自主事業講座料・自主事業焼成費・教室・貸室粘土代・貸室付帯設備費他
雑入	525,000	0	525,000	0	525,000	
印刷代	5,000		5,000		5,000	ｺﾋﾟ-代金
自動販売機手数料	140,000		140,000		140,000	自動販売機売上
駐車場利用料収入			0		0	
その他（　　）	380,000		380,000		380,000	受取利息・陶芸材料売上・作陶展出品料他
収入合計	41,304,000	0	41,304,000	0	41,304,000	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	17,037,000	0	17,037,000	0	17,037,000	
給与・賃金	14,667,000		14,667,000		14,667,000	
社会保険料	1,500,000		1,500,000		1,500,000	社会保険料・雇用保険料
通勤手当	800,000		800,000		800,000	通勤費
健康診断費・福利厚生	70,000		70,000		70,000	健康診断費・香典・見舞金他
勤労者福祉共済掛金			0		0	
退職給付引当金繰入額			0		0	
事務費	2,220,000	0	2,220,000	0	2,220,000	
旅費	10,000		10,000		10,000	出張交通費
消耗品費	300,000		300,000		300,000	事務用消耗品費
会議賄い費	50,000		50,000		50,000	年度指針報告会等
印刷製本費	180,000		180,000		180,000	講座パンフレット・チラシ・広告宣伝費
通信費	300,000		300,000		300,000	電話料金・郵送料・切手代金
使用料及び賃借料	436,000	0	436,000	0	436,000	
横浜市への支払分	220,000		220,000		220,000	ゴミゼロルート回収費・目的外使用料
その他	216,000		216,000		216,000	駐車場契約料
備品購入費	500,000		500,000		500,000	ﾚｼﾞｽﾀｰ・ﾃﾞｨｽｸﾄｯﾌﾟﾊﾟｿｺﾝ他
図書購入費	20,000		20,000		20,000	陶芸ライブラリー用図書購入費
施設賠償責任保険	79,000		79,000		79,000	施設管理者賠償責任保険・動産総合保険・ﾚｼﾞｬｰｻｰﾋﾞｽ保険他
職員等研修費	20,000		20,000		20,000	陶芸教材用材料・素材購入費
振込手数料	45,000		45,000		45,000	銀行振込手数料
リース料	100,000		100,000		100,000	電動ロクロ・小型電気炉・ｺﾋﾟｰ機ﾘｰｽ料
手数料	180,000		180,000		180,000	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞドメイン管理料・会計ソフトサポート料・ネットバンキング手数料
地域協力費			0		0	
事業費	13,020,000	0	13,020,000	0	13,020,000	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費			0		0	
自主事業費	13,020,000		13,020,000		13,020,000	業務委託料・陶芸用材料仕入
管理費	5,516,290	0	5,516,290	0	5,516,290	
光熱水費	1,752,000	0	1,752,000	0	1,752,000	
電気料金	1,030,000		1,030,000		1,030,000	三相・200V,単相100V電気料金
ガス料金・灯油料金	272,000		272,000		272,000	プロパンガス・灯油窯用灯油
水道料金	450,000		450,000		450,000	上下水道料金
清掃費	2,200,000		2,200,000		2,200,000	毎日清掃（毎日）・定期清掃（年2回）
修繕費	500,000		500,000		500,000	施設備品・建物管理保全費
機械警備費	400,000		400,000		400,000	開館時以外常時機械警備（365日）
設備保全費	664,290	0	664,290	0	664,290	
空調衛生設備保守	410,000		410,000		410,000	定期保守点検（年2回）・室内送風機洗浄他
消防設備保守	88,000		88,000		88,000	消防設備点検（年2回）・総合設備点検（1回/2年）
電気設備保守	150,000		150,000		150,000	電機点検（年1回）・電気炉保守点検（年1回）
害虫駆除清掃保守	11,000		11,000		11,000	スズメ蜂殺虫剤・蚊取線香他
駐車場設備保全費			0		0	
その他保全費	5,290		5,290		5,290	松葉清掃・排水枡排泥用収納袋他
共益費			0		0	必要に応じて支出
公租公課	1,700,010	0	1,700,010	0	1,700,010	
事業所税			0		0	事業所床面積と従業者数が標準に満たない為
消費税	1,700,000		1,700,000		1,700,000	実績に基ずく試算
印紙税			0		0	
その他（　　）	10		10		10	受取利息からの納税分
事務経費　（計算根拠を説明欄に記載）	1,810,700	0	1,810,700	0	1,810,700	
本部分	1,069,200		1,069,200		1,069,200	本社労務管理費等
当該施設分	741,500		741,500		741,500	事務用品費他
ニーズ対応費			0		0	
支出合計	41,304,000	0	41,304,000	0	41,304,000	
差引	0	0	0	0	0	

自主事業費収入	16,728,000			0		自主事業講座料・焼成費・粘土代他
自主事業費支出	13,020,000			0		業務委託料・陶芸用材料仕入
自主事業収支	3,708,000			0		

管理許可・目的外使用許可収入	525,000			0		陶芸用小道具売上・自動販売機売上手数料
管理許可・目的外使用許可支出	220,000			0		目的外使用料・ｺﾞﾐｾﾞﾛﾙｰﾄ回収費
管理許可・目的外使用許可収支	305,000			0		